

米国輸出向け秋冬番茶の 効果的な炭疽病防除体系

要旨

米国MRLに対応できる炭疽病の秋期防除は、萌芽期～1葉期の銅水和剤と3～4葉期のアミスター20フロアブルの組み合わせが効果的。

背景

- ◆ 日本茶の海外輸出には、輸出相手国の残留農薬基準(MRL)への対応が必要。
- ◆ 米国の残留農薬基準に対応した殺菌剤は銅剤のみであったが、H27年にアゾキシストロビン(アミスター20フロアブル)が設定。
- ➡ 秋冬番茶を米国に輸出するための炭疽病の効果的な秋期防除体系を構築する。

成果の内容

- ◆ 輸出向け秋期防除体系は、炭疽病に対して慣行防除体系より効果が劣るものの、秋冬番茶では萌芽期～1葉期の銅水和剤と秋芽3～4葉期のアミスター20フロアブルの組合せが効果的。

表1 秋芽生育期における銅水和剤とアミスター20FLの散布時期(H27)

試験区	萌芽期～1葉期	2～3葉期	3～4葉期
アミスター萌芽期散布	アミスター20FL	コサイト3000	コサイト3000
アミスター2-3葉期散布	コサイト3000	アミスター20FL	—
アミスター3-4葉期散布①	コサイト3000	—	アミスター20FL
アミスター3-4葉期散布②	コサイト3000	コサイト3000	アミスター20FL
慣行防除体系	ヘフト-W	—	オンリーワンF
無防除	—	—	—

1) 散布量:200L/10a

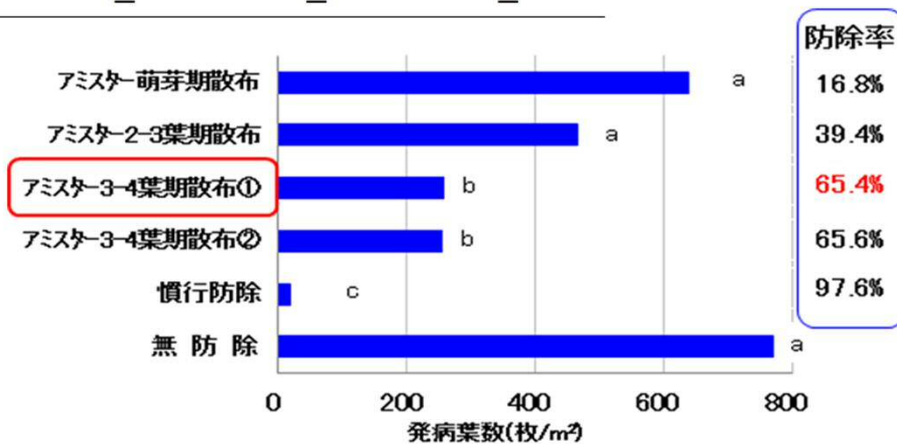


図1 多雨条件での炭疽病に対する防除効果(H27)

期待される効果

- ◆ 効果的な秋期病害防除技術の普及による秋冬番茶の安定生産と米国への輸出促進

炒蒸機とネット型乾燥機を用いて製造した 加工用てん茶・抹茶の品種別色の特徴

「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」『実需者の求める、色・香味・機能性成分に優れた茶品種とその栽培・加工技術の開発』(2014～2018)

要旨

炒蒸機とネット型乾燥機を用いて製造した(新てん茶ライン製)加工用てん茶・抹茶について、品種別に色の特徴を整理。



背景

- ◆ リーフ茶の需要が低迷する中、加工用てん茶(抹茶)、粉末茶などの需要が増加。
- ➡ 新てん茶ライン製てん茶をボールミルで粉砕した抹茶の品種別品質特性を、生葉の原葉形質、てん茶の化学成分、抹茶の測色値等を用いて明らかにした。

成果の内容

- ◆ 生葉の葉緑素量が多く、葉厚の薄いものほど、抹茶の色は濃鮮緑となる(図1)。
- ◆ 「おくみどり」は抹茶の色が他の品種に比べ濃鮮緑で優れ、加工用抹茶としての適性が高い(図2)。

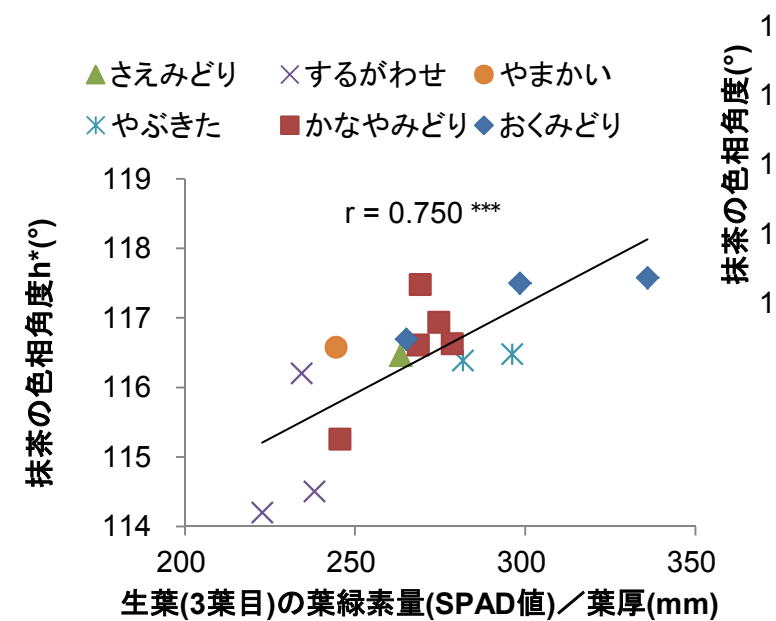


図1 一番茶生葉の葉緑素量/葉厚と抹茶の色相角度の関係

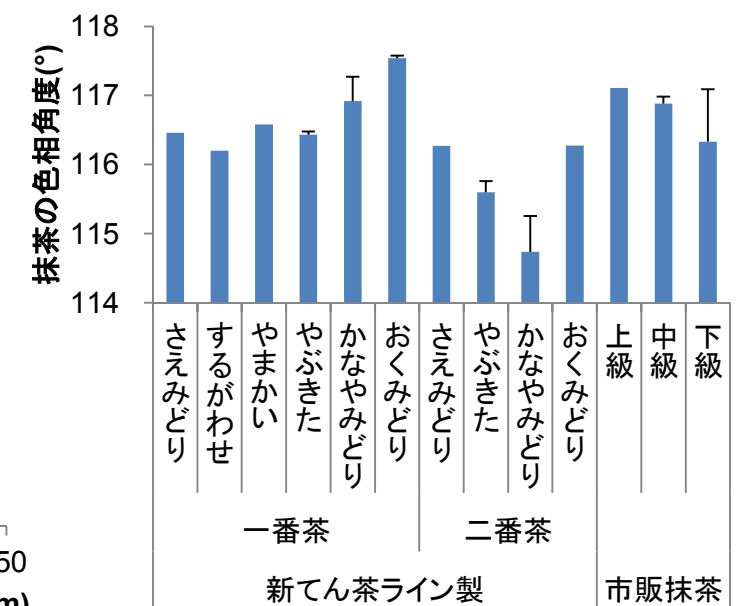


図2 新てん茶ライン製と市販抹茶の品質比較
上級:1,500円以上, 中級:700～1,500円
下級:700円未満, ※価格(20g当たり)

期待される効果

- ◆ 本県の特徴である多品種生産において、てん茶生産の付加価値向上につながる。